

平成30年度特別展

出水郷士が見た

明治維新と 西南戦争



会津若松稻荷祠「銅鏡」
背景：西南戦争出兵人名簿

- 会期：平成30年10月7日(日)～11月18日(日)
〔休館日：10月15日〕
- 会場：出水歴史民俗資料館(中央図書館2階)
- 入館時間：9:00～18:00(平日)
9:00～17:00(土日祝)
- 入館料：無料

- 主な展示資料：
「異国船警衛二付、江戸出府日記」伊藤祐徳
「西園寺殿山陰道下向二付、供奉日記」
壱岐清兵衛
湿板写真「河添助四郎登鯉」(ガラス原板)
会津若松稻荷祠「銅鏡」(御神体)
西南戦争出水土族「出兵人名簿」

開催にあたって

今年は、明治維新150年であると同時に西南戦争140年の節目の年にあたります。

薩摩が、倒幕運動を推進する中、出水郷士もその一員として重要な役割を務めました。「黒船来航」の際は江戸警衛のために、また「禁門の変」の際には京都御所防禦のために出陣しました。また「戊辰戦争」が始まると、「鳥羽・伏見の戦い」「山陰道鎮撫」「越後戦争」「奥羽戦争」等多くの戦いに参加し、奮戦して犠牲者も出しています。

しかし、これら郷士の活躍も鹿児島城下士からは十分に認められず、その評価は低いものであったようです。

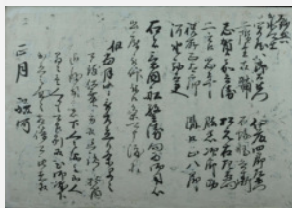
明治10年、西南戦争が勃発すると、出水の青年たちは、長老たちの引き留めにも拘わらず参戦し、多くの戦死者を出しています。

今回の特別展は、郷士の視点から明治維新、西南戦争をあらためて見つめ直すものです。教科書等には現れない、明治維新、西南戦争の新たな一面をご紹介します。

出水歴史民俗資料館【TRC 図書館流通センター 出水営業所】

899-0204 鹿児島県出水市本町3番14号 Tel.0996(63)0256

ペリー来航と 出水郷土

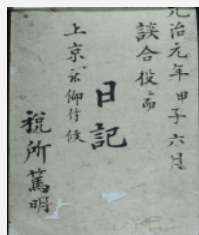


【伊藤祐徳日記】



【箱崎八幡神社石灯籠】

戊辰戦争に出陣 した出水郷土



【税所篤明日記】



【河添登鯉病院旗(写真)】

個人蔵

県歴史資料センター黎明館保管

鳥羽・伏見の戦いの後、番兵一番隊は西園寺公望を総督とする鎮撫隊の一員として山陰道へ出動した。壱岐清兵衛は、この時の功勞として「脇差一腰」を賜った。



【西園寺公望拝領脇差箱書き】

嘉永6(1853)年、ペリー率いるアメリカ黒船艦隊は浦賀に入港し、鎖国の日本に開港を迫った。幕府は、大名に江戸警備を申し渡した。

安政元(1854)年、薩摩は江戸警衛部隊を派遣した。その中に戦兵として伊藤祐徳ら11人が含まれていた。

翌年帰陣した伊藤らは、その無事を感謝して郷里の箱崎八幡神社に2基の石灯籠を献灯した。

開国、攘夷を巡って国論は大きく分かれ、各藩の間でも対立が生じた。

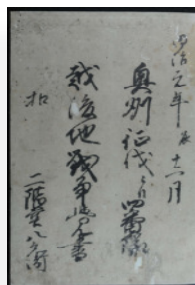
元治元(1864)年、長州軍が京都御所に兵を向ける「禁門の変」が起こった。

出水郷土、税所篤明は出水隊の談合役(参謀)として出陣した。

日記によると、出水隊は小松帯刀の指揮下にあり、烏丸通で長州軍と戦闘を行った。

慶応4(1868)年正月、鳥羽・伏見の戦いが勃発した。戊辰戦争の始まりである。

出水郷土は、番兵一番隊や外城四番隊の一員として参加した。河添登鯉は、医師として出陣し、相国寺に「病院」の旗を掲げた。



【越後地戦争覚書】
二階堂八兵衛】



【稲荷祠「銅鏡」】

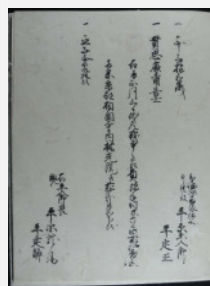
徳川方の諸藩は、奥羽越列藩同盟を結び越後や東北の各地を戦場として激しく抵抗した。

外城四番隊は新潟から、番兵一番隊は福島から、それぞれ会津を目指した。

9月、会津若松城は落城し、会津藩は降伏した。城の近くに小さな稲荷祠があり、これにも火が燃え移っていた。

外城四番隊隊長二階堂八兵衛は、御神体である銅鏡を守るために、取り出し持ち帰ることとした。

郷土と城下士



【死者手負い人数帳】

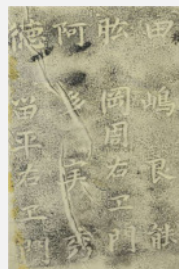
郷土は、長い間城下士から「一日兵児(ひしてべこ)」と蔑まれていた。

戊辰戦争が終わり、戦死者、負傷者、帰還兵にはそれぞれ行賞が行われたが、郷土に対してはいつまでも支給されなかった。

出水と西南戦争

明治10(1878)年、「西郷隆盛、決起す」の報に出水私学校の若者たちも共に立ち上がるべきとの声を上げた。

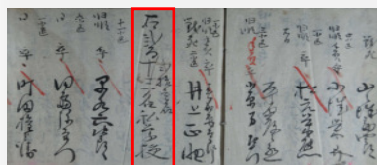
長老の「これは、鹿児島と政府の争いであり、出水には関係のないことである」との声も届かず、二百数十名の青年たちは、紫尾峠を越え鹿児島に向かった。



【戦死者記念碑拓本(部分)】

西南戦争における出水の若者の状況については、所属をはじめ詳細な記録は残されていない。

102人が戦死したと記録されるが、その多くは亡くなった場所さえ不明である。



【出兵人名簿】

て私学校(積極的参加)、憫意(同情的参加)、脅迫(消極的参加)と三段階に区分されている。

出水出身の警視庁巡查が、戦後まもなく記録して報告した出兵人名簿である。参陣の動機とし